



かしてつ石岡～常陸小川間 開業100周年記念シンポジウム

鹿島鉄道の83年、廃線後の17年、そしてこれから

2024年6月9日（日）

小美玉市小川文化センター アピオス

鉾田駅保存会・鹿島鉄道保存会・小川南病院

かしてつ石岡～常陸小川間開通100周年記念展について

“かしてつ”と呼ばれ石岡から常陸小川・玉造町を経て鉾田までを結んでいた鹿島鉄道は、100年前の1924年6月8日に石岡から常陸小川までが開通し、17年前の2007年に廃止されました。廃線から17年を経て「この地域に鹿島鉄道という素敵な鉄道が走っていた」という地域の記憶も残念ながら少しずつ風化するとともに、“かしてつ”を知らない世代も増えて参りました。

今般、100周年を機に鹿島鉄道の車両計6両を静態保存している3団体の共催にて、開業当時の公文書の複製や、廃止前・廃止後の写真、各種資料等を展示する記念展を開催し、また『鹿島鉄道の83年間の歴史や思い出、廃線までの経緯・存続運動』と『鹿島鉄道廃線後の17年間を振り返り、この地域のこれからの公共交通を考える』の2つをテーマとしたシンポジウムを開催する運びとなりました。

私たちの心の中で、今でもずっと走り続けている鹿島鉄道を改めて思い起こすとともに、地域住民の皆様がこれからの地方交通のあり方を考える一つのきっかけとなれば幸いに存じます。

2024年6月9日

鉾田駅保存会・鹿島鉄道保存会・小川南病院

<本日のプログラム>

11:00	受付開始
12:00	記念演奏 ANAKライブ①
12:50	来賓のご紹介
13:10	シンポジウム テーマⅠ「鹿島鉄道の83年」 鹿島鉄道の歴史・思い出、廃線までの経緯・存続運動
14:30 頃予定	休憩
14:45 頃予定	シンポジウム テーマⅡ「廃線後の17年、そしてこれから」 かしてつバス・コミュニティバス・茨城空港アクセス
16:00	記念演奏 ANAKライブ②
16:40	終了予定

※進行状況により変更となる場合がありますのでご了承下さい。

後援 小美玉市・石岡市・小美玉市教育委員会・関東鉄道グループ
協力 関鉄レールファンCLUB

ご後援・ご協力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

パネリストのご紹介（敬称略/順不同）

諸岡 信裕 小川南病院前理事長

1948年瓜連町(現那珂市)生まれ。県立水戸一高卒。金沢大学医学部卒業後、千葉大学医学部第三内科講師等を経て、1993年より医療法人白帆会小川南病院院長。2006年より同法人理事長。2023年6月に院長を退任し、相談役に就任。前茨城県病院協会会長。元茨城県医師会会長。元茨城県公安委員会委員長。小学校1年生の入学時からという筋金入りの鉄道愛好家でもある。

栗又 衛 元かしてつ応援団顧問 元県立小川高校教諭

1957年玉造町(現行方市)生まれ。筑波大学第一学群自然科学類卒。県立小川高校には1993年度から2007年度まで勤務。その後、定年まで石岡第一高校教諭。NPO法人霞ヶ浦アカデミー理事。全国の輸送密度4,000人未満のローカル私鉄はすべて探訪済。現在は海外旅行を趣味とし、世界各国の鉄道に乗る。

宮野 裕司 関鉄グリーンバス株式会社代表取締役社長

1967年八郷町(現石岡市)生まれ。県立石岡一高卒。関東鉄道株式会社自動車部長を経て、2022年7月に関鉄パープルバス株式会社代表取締役社長に就任。2023年4月から兼ねて関鉄グリーンバス株式会社代表取締役社長に就任。一般社団法人茨城県バス協会監事を務める。

岡野 利通 鉾田駅保存会理事長

1964年鉾田市生まれ。県立鉾田一高卒。陸上自衛隊で航空通信整備陸曹として勤務。2018年定年退官。大協樹脂株式会社茨城工場勤務。鹿島鉄道坂戸駅跡直近に在住する沿線住民であり鉄道利用者だった。幼少より親しんだ鹿島鉄道は鉄道ファンとしての原点でもある。坂戸駅最寄りの鉾田市の温泉施設『ほっとパーク鉾田』に保存されている鹿島鉄道の気動車2両の保存・維持活動を行う鉾田駅保存会で理事長を務める。

加藤 三千尋 鹿島鉄道保存会代表

1969年東京都生まれ。都立小石川高・東京薬科大学薬学部卒。本郷学校薬剤師会会長。1992年フジテレビ「カルトQ」メディカルドラッグ(市販薬)カルト王をきっかけにメディアでも活躍。鹿島鉄道では、「かしてつブルーバンドプロジェクト」より存続運動に携わる。車両3両や鹿島鉄道関連品を収蔵する私設・鹿島鉄道記念館(小美玉市)のオーナー。

ANAK(アナック)のご紹介

玉里在住の長谷川久さん・京子さんご夫妻によるデュオ。廃線時は鹿島鉄道沿線の玉里工業団地のクレラップ工場「クレハプラスチック」(現クレハ)の社内バンド「サウンドWrap」として7人で活動。上玉里にある大宮神社の魔人祭での演奏を見た存続運動関係者の誘いで存続運動にも参加。鹿島鉄道でもCD販売した「鉾田線」は、永遠の名曲。現在は、空の駅「そ・ら・ら」や道の駅「たまつくり」などで定期的に演奏を行うほか、施設の慰問など精力的に活動をしている。

＜本日のセットリスト(演奏曲目)＞（＊はカバー曲、他はオリジナル曲です）

- ① 鉾田線
- ② 大糸北線・春
- ③ ローカル線へ
- ④ いい日旅立ち＊
- ⑤ 翼を下さい＊
- ⑥ アジサイ神社
- ⑦ この街で＊
- ⑧ 我ら保存鉄
- ⑨ 大糸北線

鹿島鉄道線の歴史

- 1921(大正10)年10月 石岡～玉造間の行方鉄道敷設申請
 1921(大正10)年12月 石岡～玉造間免許取得
 1922(大正11)年06月 玉造～鉢田間免許取得
 1922(大正11)年09月 9月3日 行方鉄道創立総会、商号を鹿島参宮鉄道(株)に変更
 1923(大正12)年06月 石岡～常陸小川間工事着工
 1924(大正13)年06月 6月8日 石岡～常陸小川間7.1km営業開始
 1925(大正14)年10月 立花～延方間(参宮路線)の鉄道延長申請
 1925(大正14)年11月 常陸小川～桃浦間工事着工
 1926(大正15)年01月 桃浦～浜間工事着工
 1926(大正15)年08月 8月15日 常陸小川～浜間7.3km営業開始
 1926(大正15)年11月 立花～延方間免許取得
 1927(昭和02)年05月 浜～大船津間の船舶営業開始
 1928(昭和03)年02月 2月1日 浜～玉造町間1.4km営業開始
 1928(昭和03)年08月 石岡～鉢田間電化のため、電気事業経営申請(後に電化計画放棄)
 1928(昭和03)年03月 立花～延方間免許失効
 1929(昭和04)年05月 5月16日 玉造町～鉢田間11.4km営業開始
 1930(昭和05)年09月 ガソリン動力客車併用認可
 1931(昭和06)年02月 2月1日 ガソリン動力客車運行開始、四箇村、下馬場、八木蒔、武田、坂戸停留場開設
 1931(昭和06)年07月 潮来自動車商会買収により乗合旅客自動車運送事業営業開始
 1931(昭和06)年12月 水郷遊覧汽船(株)へ船舶事業譲渡
 1937(昭和12)年06月 ディーゼル機関車導入
 1940(昭和15)年02月 専売局石岡酒精工場引込線運行開始
 1943(昭和18)年12月 四箇村、下馬場、八木蒔、武田、坂戸停留場営業休止
 1944(昭和19)年03月 3月27日 戦時統制により竜崎鉄道(株)を買収、鉢田線と竜ヶ崎線の2路線になる
 1951(昭和26)年10月 借宿前停留場新設、四箇村、八木蒔停留場復活
 1956(昭和31)年11月 坂戸停留場復活
 1957(昭和32)年04月 武田停留場廃止
 1959(昭和34)年11月 京成電鉄グループ傘下に入る
 1963(昭和38)年02月 桃浦・榎本・巴川駅嘱託化、浜駅無人化
 1964(昭和39)年11月 11月18日 東田中停留場新設
 1965(昭和40)年06月 6月1日 常総筑波鉄道(株)と合併、商号を関東鉄道(株)に変更 常総線・筑波線を加える
 1967(昭和42)年03月 3月11日 百里基地航空燃料輸送開始
 1971(昭和46)年10月 単線自動閉塞装置新設、玉里信号場新設、桃浦・巴川に交換設備新設
 1979(昭和54)年04月 蒸気機関車全廃
 1984(昭和59)年02月 4月1日 鹿島鉄道(株)が関東鉄道鉢田線を譲受し営業開始(分離独立)
 1987(昭和62)年02月 手小荷物営業廃止
 1987(昭和62)年06月 玉造町～鉢田間ワンマン運行開始
 1988(昭和63)年04月 通産省アルコール工場引込線廃止
 1989(平成01)年06月 常陸小川～玉造町間ワンマン運行開始
 1989(平成01)年10月 4月1日 玉里信号場を駅に格上げ、小川高校下駅新設
 1993(平成05)年12月 6月16日 石岡南台駅新設、石岡～玉里間増発、KR-500形運行開始
 1996(平成08)年07月 石岡～常陸小川間ワンマン運行開始
 2000(平成12)年10月 10月1日 榎本～鉢田間貨物営業廃止
 2001(平成13)年04月 A T S(自動列車停止装置)設置
 2001(平成13)年12月 列車無線設置
 2002(平成14)年02月 玉造町駅嘱託化
 2002(平成14)年04月 玉造町駅が第4回関東の駅百選に選定
 2002(平成14)年07月 常陸小川駅嘱託化
 2003(平成15)年07月 鉢田駅嘱託化、終列車の鉢田駅仮泊廃止、深夜早朝に回送列車新設
 2003(平成15)年08月 12月26日 茨城県・沿線5市町村による支援を検討する「鹿島鉄道対策協議会」発足
 2004(平成16)年01月 鹿島鉄道対策協議会がアンケート調査(～13日)、69%が財政的支援に賛成
 2004(平成16)年02月 4月1日 石岡～榎本間貨物営業廃止
 2004(平成16)年10月 7月29日 鹿島鉄道対策協議会が鉄道存続を前提に公的資金投入を決定
 2005(平成17)年03月 あさぎ開花期間の土・日祝日にHM付定期列車「あさぎ号」を運転開始
 2005(平成17)年11月 自転車持込サービス「サイクル&トレイン」開始
 2006(平成18)年02月 「シルバーげんきフリーパス」発売開始
 2006(平成18)年03月 2月15日 関東運輸局主催「マイレール・フォーラム」開催
 2006(平成18)年04月 かしてつ応援団「鹿島鉄道応援募金」開始
 2006(平成18)年05月 かしてつ応援団が玉里駅ホーム待合室をペイント
 2006(平成18)年06月 かしてつ応援団「公的支援の継続を求める署名」開始
 2006(平成18)年07月 「かしてつブルーバンドプロジェクト」発足
 2006(平成18)年08月 2月20日 鹿島鉄道対策協議会席上にて廃線の意向を表明
 2006(平成18)年09月 3月19日 「鹿島鉄道応援メッセージ発表会」開催(玉里村総合文化センターコスモス)
 2006(平成18)年10月 3月30日 国土交通大臣宛て鉄道事業廃止届出書を関東運輸局に提出
 2006(平成18)年11月 貸切イベント列車「みんなでカシノリ」号が石岡～鉢田間で運行(全5回開催)
 2006(平成18)年12月 かしてつ応援団「公的支援の継続を求める署名」16,000筆を対策協議会に提出
 2006(平成18)年01月 鉄道事業法に基づく意見聴取会実施(石岡プラザホテル)
 2006(平成18)年02月 国土交通省 鹿島鉄道廃止日の繰上げを認めない旨通知
 2006(平成18)年03月 「鹿島鉄道存続再生ネットワーク」発足
 2006(平成18)年04月 「かしてつ祭り8.27」沿線で開催 4,000人参加
 2006(平成18)年05月 懸賞付き定期券発売

2006(平成18)年11月	「鹿島鉄道存続再生基金」寄付予約受付開始
2006(平成18)年12月	11月17日 鹿島鉄道対策協議会 平成18年度での支援打切を決定 11月19日 鹿島鉄道対策協議会「鹿島鉄道の新たな運営主体」公募決定 鹿島鉄道応援ソング サウンドWrap「銚田線」CD発売 「鹿島鉄道の新たな運営主体」応募者の説明会開催
2007(平成19)年01月	12月24日 鹿島鉄道対策協議会 公募2団体不採用 廃線決定
2007(平成19)年03月	「さよなら鹿島鉄道全駅硬券入場券」発売 「鹿島鉄道の廃線と代替バスの説明会」実施(小川文化センター)
2007(平成19)年04月	3月31日 鹿島鉄道線運行最終日 4月1日 鹿島鉄道線廃止 関鉄グリーンバスによる代替バス運行開始 4月2日以降 撤去作業開始

鹿島鉄道代替バス(かしてつバス)の歴史

※斜字は小美玉市コミュニティバスに関する項目です。

2007(平成19)年04月	4月1日 鹿島鉄道代替バス運行開始 「みどりの日記念 鹿島鉄道代替バス1日フリーきっぷ」発売(4/28~5/6の土休日)
2007(平成19)年07月	沿線高校生による「かしてつバス応援団」発足 「かしてつ跡地利用を考える勉強会」スタート 「鹿島鉄道代替バス1日フリーきっぷ」通年発売(土休日)
2008(平成20)年01月	「かしてつ跡地バス専用道化検討委員会」設置
2008(平成20)年11月	石岡駅~四箇村駅間5.1kmの事業化決定(石岡市・小美玉市)
2009(平成21)年01月	「かしてつ沿線地域公共交通戦略会議」設立
2009(平成21)年10月	バス専用道化事業説明会の開催(石岡市・小美玉市)
2009(平成21)年11月	バス専用道工事着工 バス事業者募集、関鉄グリーンバスに決定
2010(平成22)年03月	3月11日、石岡駅~茨城空港連絡バス運行開始、「茨城空港ダブルチケット」発売
2010(平成22)年08月	8月22日 開通記念ウォーキング大会開催 開通記念式典の開催(石岡駅西口バスターミナル)
2011(平成23)年04月	8月30日 石岡一高下~四箇村駅間の供用開始・実証運行の開始 「かしてつバス・サポーターズクラブ」設置、特別割引定期券発売(4/1~3/31) 「かしてつバス1日フリーきっぷ☆親子割引」通年発売(土休日・休校日)
2012(平成24)年03月	3月11日 利用促進イベントとしてボンネットバス運行
2012(平成24)年10月	10月1日 銚田駅~新銚田駅間延長、茨城空港~新銚田駅線運行開始 ※小美玉市内循環バス実証運行開始 「かしてつ沿線地域公共交通戦略会議」解散
2014(平成26)年03月	7月1日 小川駅バスロータリー供用開始
2014(平成26)年07月	※小美玉市地域循環バス実証運行開始
2015(平成27)年06月	9月1日 石岡駅BRTバスターミナル供用開始
2016(平成28)年09月	※小美玉市内循環バス・地域循環バスルート再編、日曜日の運行追加
2017(平成29)年01月	3月14日ダイヤ改正 上り便の所要時間短縮
2017(平成29)年03月	かしてつバスロケーションサービス終了
2017(平成29)年12月	3月16日 交通系ICカードPASMOを導入(小美玉市バスを除く)
2018(平成30)年03月	4月28日 バスIC1日乗車券を関鉄グループ4社共通で開始(一部路線を除く)
2018(平成30)年04月	9月14日ダイヤ改正 最終便の繰上げ
2019(令和01)年09月	新型コロナウイルス感染症の影響により一部便運休(4/27~6/11)
2020(令和02)年04月	※小美玉市内循環バスに交通系ICカードPASMOを導入(地域循環を除く)
2020(令和02)年10月	新型コロナウイルス感染症の影響により一部便運休(2/21~3/31)
2021(令和03)年02月	※小美玉市地域循環バス運行終了
2021(令和03)年03月	4月1日ダイヤ改正 玉里学園通学便の設定
2021(令和03)年04月	※小美玉市コミュニティバス「おみたん号」本格運行開始
2021(令和03)年09月	9月18日ダイヤ改正 石岡駅BRTバスターミナル改修工事に伴い西口発着へ変更
2022(令和04)年03月	「かしてつバス1日フリーきっぷ」発売終了 ICカード「バス利用特典サービス(バス特)」付与終了
2022(令和04)年04月	定期券をPASMO・Suicaに変更するとともに、発行方式を区間式から金額式に変更 高齢者全線フリー定期券「関鉄ふれ愛バス」をIC化、対象年齢を65歳に引き下げ 関鉄グループバス共通IC金額式通学定期券に学期定期券を導入
2022(令和04)年07月	7月9日 石岡駅新バスターミナル供用開始(西口発着便を新バスターミナルへ集約)
2024(令和06)年03月	3月1日運賃改定
2024(令和06)年04月	4月1日ダイヤ改正 始発便の繰下げ、大谷津経由便、茨城空港~新銚田線廃止 ※小美玉市コミュニティバス「おみたん号」ルート再編、高浜駅乗り入れ

統計グラフなどの資料は、こちらのQRコードから見るができます⇒
<https://www.hokotaeki.jp/100th/GRAPH100.pdf>



団体名

医療法人白帆会 小川南病院

小規模多機能型居宅介護事業所 はるるの郷 キハ432号



小川南病院 前理事長 諸岡 信裕

鹿島鉄道が、2007 年に廃線となり、地元で利用していた通学・通勤の足がなくなり、大きな課題を残した。また、利用客の多かった県立小川高校生の数も減少し、ついに、小川高校は廃校となった。わが病院の窓から見る事ができた鹿島鉄道の気動車が走る姿や汽笛も消え、寂しい光景となった。

60 年来の鉄道ファンを自負する諸岡が、常陸小川駅からほど近い、小川南病院の敷地内に、何とか移設し、気動車「キハ 432」の勇姿を、皆様に示すことができた。

2008 年、廃線 1 周年を記念し、ひたちなか海浜鉄道 吉田千秋社長を迎えて、地元のルンビニー学園幼稚園児とともに「かしてつ同窓会」を開催した。

2012 年、「キハ 432」生みの親、加越能鉄道加越線のかつての仲間が、富山県高岡市から、来院し、加越線廃止後 40 年ぶりに感動の再開、そして乗車。

2012 年、「鉄道ジャーナル」12 月号に、失われた鉄道の記憶「鹿島鉄道」：今も息づく霞ヶ浦の小径が掲載され、BRT や生きているキハ 432 などが紹介された。

2021 年、60 年前に玉造町駅から石岡駅まで鹿島鉄道に主人公と乗車後、石岡駅で生き別れになってしまい、その後 17 年間 石岡東小学校と石岡駅間を朝夕通い続けた一匹の保護犬の感動的な物語 映画「石岡タロー」のロケーションを「キハ 432」で実施。諸岡は側面から支援を行い、運転士としても参加協力した。現在、茨城県内を皮切りに、東京・静岡・千葉・高松・大分、大阪など各地で全国展開し、絶賛上映中である。

2022 年、富山新聞の記者来所「気動車キハ 432 茨城の病院で活躍」と紹介された。いまだに、全国各地から、「キハ 432」の見学に、多くの鉄道ファンが、来所しており、時々、車内の開放実施中。また、隣接する介護施設の利用者の憩いの場となっている。

2004 年には、当時の小川高校の「かしてつ応援団」の皆さんや栗又先生などとともに茨城県橋本知事に「鹿島鉄道」の存続について、何回か陳情に行ったが、土日や祝日のみ鉄道ファンが乗車するだけでは鉄道は維持できないとの答え。地元の人が本当に地域の足として、鉄道を利用しないと、維持存続は無理！

「みんなで乗って残そう、地域の鉄道」

そして、今回の「かしてつ石岡～常陸小川間開通 100 周年記念シンポジウム」に加越線資料保存会の皆様が、遠路富山県から出席して頂き、感謝！ちなみに、加越能鉄道加越線廃止から 52 年(全線開通から 102 年)である。昨年、開業した 関東初めての LRT「宇都宮ライトレール」が宇都宮市民の足として、順調なスタートを切った。これからの実績を期待したい。



映画「石岡タロー」ポスター



車内口ケ風景



映画「石岡タロー」キハ 432 と撮影スタッフ

団体名

鹿島鉄道保存会<鹿島鉄道記念館>

<https://www.facebook.com/kashitetsu>



鹿島鉄道保存会は、2007年3月末をもって営業廃止した鹿島鉄道線(石岡～鉾田間27.2km)の物品・資料の収集や茨城県小美玉市にある私設・鹿島鉄道記念館(普段は非公開)の保存展示など運営サポートを行っている任意団体です。旧かしてつ応援団をはじめとする存続運動関係者や鹿島鉄道応援ホームページメンバーなどの有志で構成され、「鹿島鉄道が心の底から好きだった」という共通認識でつながっています。

【主な保存車両など】

キハ714(1953年新潟鉄工所 元夕張鉄道キハ251)

KR-501(1989年新潟鉄工所 鹿島鉄道自社発注車)

キハ431(1957年東急車輛 元加越能鉄道キハ125) ※2023年8月再塗装実施

玉里駅上りホーム待合室

ヘッドマーク、駅名板、信号機その他多くの鹿島鉄道関連の物品、存続運動資料等を収蔵

【これまでの活動】

当保存会では、2009年2月、関係者向けに鹿島鉄道記念館をお披露目以降、事前予約制の一般公開や沿線自治体等とタイアップした特別公開、鉾田駅保存会との共催による写真展などを、スタッフのボランティア活動により実施しています。

2012年3月、かしてつ沿線地域公共交通戦略会議との共催による「懐かしのボンネットバスでバス専用道を行こう！」イベントで記念館見学を受入れました。

2017年3月、鉾田駅保存会との共催で鹿島鉄道廃線10周年写真展を石岡・鉾田市内で開催、翌2018年5月にも鹿島鉄道廃線11周年写真展を水戸市内で開催しました。

コロナ禍の2020年11月には茨城県空港対策課からのお声掛けにより、鉾田駅保存会と協働で、茨城空港ターミナルビルでの鹿島鉄道写真展と鹿島鉄道記念館の特別公開を実施しました。

2022年3月に廃線15周年を迎え、また同年9月に鹿島鉄道の前身である鹿島参宮鉄道(現関東鉄道)が創立100周年となることから、同年8月に水戸市内で鉾田駅保存会との共催で「鹿島鉄道回顧写真展・資料展」を開催したほか、同年11月には関鉄観光主催による関東鉄道100周年記念バスツアー「鹿島鉄道保存車輛見学と廃線巡りの旅」が催行され、鹿島鉄道記念館を特別公開しました。このツアーは鉾田駅保存会・小川南病院・鹿島鉄道との連携により保存車6両の見学と坂戸駅周辺の廃線ウォーク、かしてつBRT乗車ができるコースで、当保存会スタッフが行程をサポートしました。2023年3月に第2回、同年12月に第3回が催行され大好評でした。

現在、館内展示のリニューアル作業を実施中のため、次回の一般公開時期は未定です。



茨城空港ビルで開催した鹿島鉄道写真展



関鉄観光バスツアー受入れ

団体名

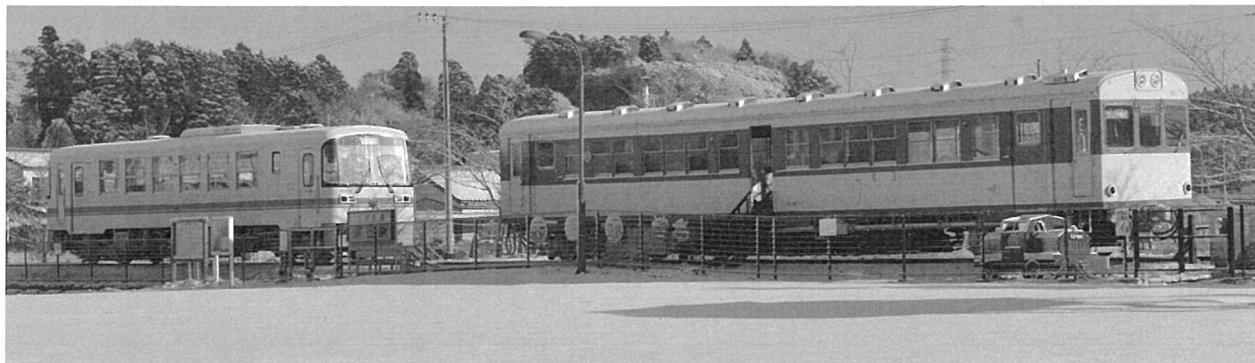
鉾田駅保存会

URL : <https://hokotaeki.jp/>

Email : hokota-station@rail.nifty.jp

〒311-1528 茨城県鉾田市当間 220 ほっとパーク鉾田内

キハ601とKR-505の保存活動をしています



当地では珍しい雪のほっとパーク鉾田展示線 (2011-01-16)

2007年3月末で廃止になった鹿島鉄道の2両の気動車(キハ601・KR-505)の保存活動を行っています。

キハ601は昭和11(1936)年川崎車輛製のキハ42032(後のキハ07)で、鹿島鉄道廃線時には全国で最古の営業用気動車でした。今年米寿を迎えます。

鹿島参宮鉄道の開業は大正13(1924)年であり、開業100周年も2024年となるため、祝賀イベントを実施します。(鉾田までの全線開業は昭和4(1929)年)

KR-505は平成4(1992)年新潟鉄工製の鹿島鉄道独自の気動車で製造後32年となりました。

当会は、2両が展示されている、茨城県鉾田市の市営温泉施設『ほっとパーク鉾田』において、月例の定期車両公開と、車両の保全・補修作業を実施しています。

保存活動を行っている鹿島鉄道の気動車、キハ601とKR-505は廃線後の2008年1月に当会が鹿島鉄道殿から購入したものでした。

当初、鉾田駅保存会は賃借した鉾田駅跡地において2両の気動車の保存活動をしていました。

その後、紆余曲折があり、鉾田市議会の議決により、鉾田市の温泉施設『ほっとパーク鉾田』において、2両を保存することになり、当会は2両の気動車を鉾田市に寄付し、鉾田駅の保存車両は2009年12月24日に、『ほっとパーク鉾田』に移送されました。2010年度より、現在地での車両公開イベントを開始しています。

2011年の東日本大震災で路盤の液状化により道床の破壊と車両の傾斜・床下機器損傷等の被害を受けました。車輛を一時的に移動して道床の復旧が行われ、2011年12月に元の道床に復帰し、2012年3月より当会は公開イベントを再開しました。

以後4~11月の原則最終日曜日の定期車両公開イベントを継続実施してきました。並行して天候の比較的稳定した12~3月に全塗装等の大規模補修作業を行い、その他の保守作業は随時実施してきました。

2020・2021年度は新型コロナの感染防止対応で、状況を熟慮しつつ条件の整った場合は公開を実施しました。

2022年度は定期公開・広報活動を実施するとともに、鹿島参宮鉄道会社設立100周年・廃線15周年にあたるため水戸市において『鹿島鉄道廃線15年展』を鹿島鉄道保存会さんと共催で実施しました。

2023年度も定期公開と特別公開、周辺のイベントでの広報活動を実施しました。7~8月の暑気避けの夏日程(15時~19時)の公開では、キハ601の前照灯・室内灯の点灯と警笛の吹鳴を行いました。

また、冬季には2両の全塗装を行いました。

定期公開では活動の周知と、鹿島鉄道を知らない世代への記憶継承を目的に下記の企画を行っています。

- (1) 鹿島鉄道関連資料・書籍等の展示
- (2) 保存活動内容の展示・広報
- (3) 車内でのプラレール遊び
- (4) 車内での鉄道模型展示・運転
- (5) 5インチ乗用鉄道の体験乗車
(16m×12mオーバルほか)

また、鉾田市や商工会主催の鉾田うまっぺフェスタ・ほこたマラソン・ほこたいっぱいマルシェ・くぬぎの郷まつりや、石岡市商工祭などの地域行事に参加・協力し、広報活動を行っています。近隣施設での広報活動も実施しています。

2024年度も、3月末から車両公開を実施しています。今後の公開日程は、6/30・7/27(夏日程)・8/11(夏日程)・8/24(夏日程)・9/29・10/27・11/24の予定です。

廃線から17年が経過し、毎年補修・塗装を行っているとはいえ、車両の劣化も進んでいます。

錆びを落とし塗装をするだけでは凌げない箇所も多々あり、技術力(防錆・溶接等)の向上と補修用機材(溶接機等)の導入、人員の強化が変わらぬ課題です。



前照灯・室内灯を点灯したキハ601

MEMO

本日はご来場いただき誠にありがとうございました。



鉾田駅保存会



鹿島鉄道保存会



小川南病院